

千代鈴逆転V5

紙相撲新聞

第161回本場所
十日目～千秋楽号

編集・発行
日本紙相撲協会

横綱の底力、四つ巴の決定戦を制す

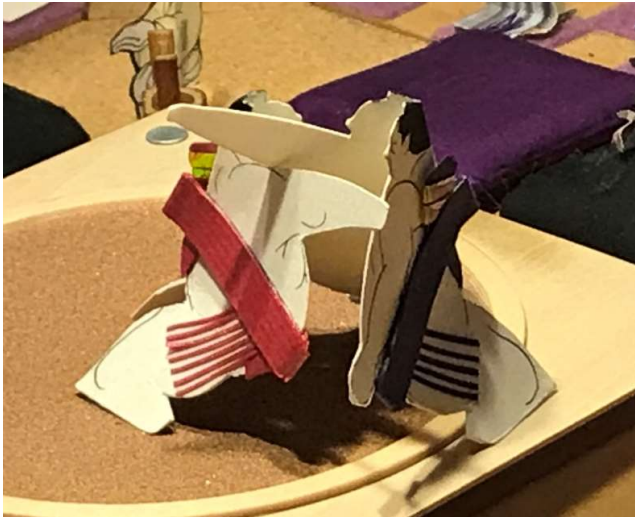
大神楽、綱昇進は来場所に持ち越し

【第百六十一回本場所十日目千秋楽】

開花の遅かった桜もあつという間に見頃を過ぎた4月13日に十日目と千秋楽が開催され、熱き戦いが繰り広げられた。

優勝争いは混戦となつて4力士による決定戦にもつれ込み、最後は横綱千代鈴が熱戦を制し逆転で5回目となる賜杯を手にした。

千秋楽結びで1敗の大関大神楽と2敗の横綱千代鈴が対戦し、大神楽が勝つて優勝という一番で千代鈴が勝つて



↑ 決定戦決勝、弟弟子で連覇を狙う西神門を一蹴。最後の局面で横綱の貫禄を示した形だ。

↓ 決定戦初戦、本割で追い付かれた大神楽は綱昇進を賭けて何としても勝ちたかったが、横綱の壁に阻まれた。



九日目を終えた時点で、大神楽と関脇西神門の2力士が8勝1敗で優勝争いの先頭に立ち、これを横綱千代鈴、関脇四季嶋、平幕の剛勇山、鬼ヶ嶽、若佐の5力士が2敗で追うという状況だった。



横綱千代鈴、大関大神楽、関脇西神門、前頭六枚目鬼ヶ嶽の4力士による優勝決定戦となった。

くじ引きの結果、西神門と鬼ヶ嶽、千代鈴と大神楽の対戦となり、剛勇山に勝った西神門と本割に続き大神楽に勝った千代鈴との同部屋力士によって優勝が争われ、千代鈴が弟弟子の西神門を寄り切つて2場所振りの優勝で綱の責任を果たした。

綱獲りを賭けた大神楽は、あと一歩のところまで優勝を逃し横綱昇進が見送られた。

千秋楽の打ち出し後に開かれた理事会で朝日松理事長が「大関大神楽の横綱昇進に関しては見送り、もう一場所様子を見たいと思う。先場所9勝2敗で準優勝の成績を上げ今場所は優勝同点の9勝2敗という好成绩だったが優勝に手が届かず、また本割と決

優勝	殊勲賞	敢闘賞	技能賞	十両	三段目	序二段	序口
千代鈴	磯自慢	西神門	剛勇山	越境山	千文岳	松月	如島
九勝二敗 (5)	七勝四敗 (初)	九勝二敗 (4)	八勝三敗 (2)	九勝二敗 (初)	五勝 (初)	五勝 (初)	五勝 (初)

定戦で千代鈴に連敗したこともあり、来場所に期待したいと思う。」との考えを示した。

理事会では、関脇西神門の大関昇進が議題に上がり、満場一致で大関昇進が決まった。

西神門は入幕6場所目、159回場所は前頭八枚目で9勝2敗、先場所160回場所では前頭筆頭で10勝1敗の優勝、そして今場所は9勝2敗で優勝同点と、直近3場所は28勝5敗という高水準の成績。三役経験は今場所のみだが、将来性も見据えての大関昇進決定となった。

三賞は、殊勲賞に八日目に千代鈴を見事な相撲で破った磯自慢が初受賞、敢闘賞は優勝同点の西神門(4回目)と鬼ヶ嶽(4回目)が受賞、技能賞は最後まで優勝争いをして湧かせた剛勇山が2回目の受賞となった。

千代鈴は関脇四季嶋との2敗同士の対戦。四季嶋は優勝すれば大関という声も出てこようというもの。この2日間が非常に大事になる。



西神門●(押し倒し)○鬼ヶ嶽



大神楽○(寄り切り)●綱乃花

取組み前に「千代には全然歯が立たないからなあ!」とちよつと弱気の勝間田親方だが、過去に1回勝つたことがあるだけに相撲がどうなるかはわからない。

しかし、相撲は千代鈴が圧倒し、相撲は3敗に後退して優勝争いから脱落した。



四季嶋●(寄り切り)○千代鈴

この結果、十日目を終えて、大関大神楽が1敗で優勝争いの単独トップに立ち、これを2敗で横綱千代鈴、関脇西神門、平幕の剛勇山、鬼ヶ嶽の4力士が追う展開に変わった。

運命の千秋楽。

千秋楽は千代鈴と大神楽、西神門と剛勇山と1敗と2敗の直接対決が生まれ、鬼ヶ嶽は出羽翼との対戦が組まれた。結びで大神楽が勝つて、すんなり優勝が決まるが、もし負けると最大4力士による優勝決定戦となる。



そして迎えた十日目。優勝は1敗の2力士かと思われたが、十日目に西神門が鬼ヶ嶽得意のど輪からの押し倒しに敗れて2敗に後退、大神楽は関脇綱乃花に勝つて、ただ一人1敗を守って優勝争いの先頭に立った。